

<p>国鉄改革完遂！          当たり前の労働運動を          前進させよう！          JR 東海労に          結集しよう！</p>	<p>J R          東海労</p>	<p>静岡</p>	<p>J R 東海労働組合静岡地方本部          〒420-0851 静岡市葵区黒金町 68 番地          N T T 054-284-3608          発行責任者 半場 弘恭          2020年 2月 27日 No. 10</p>
--	-----------------------------	-----------	---

## 第 29 回定期地本委員会開催

本日、静岡地方本部は、労政会館にて第 29 回定期地本委員会を開催しました。

半場委員長は、「春闘は、ベア 6,000 円、定期昇給 6,000 円と逡減撤廃、夏季手当 3,5 ヶ月などを柱として闘う。併せて『新しい人事・賃金制度』の見直しについて、諸手当の大幅改善や通勤定期、65 歳定年制度に伴う賃金減額などの問題を職場から闘っていく。」、「新型コロナウイルスについて申し入れてきたが、J R 東海の対応は他の鉄道会社よりも遅い。旅客からの苦情が無ければ対応できない。」、「職場から目に見える闘いを展開し、組織拡大に繋げていく。」等、力強く述べました。



委員からは、「新型コロナウイルスにおいて、賃金などの生活補償、家族などが感染した場合にも補償が必要。」、「新型コロナウイルスの対応について会社からはっきり出されていない。4 日間待機で病院へ行けるのか。」、「御厨駅は東交事の担当になるが、東交事を辞める人が多い。」、「様々な所で監視されてグッドジョブ賞

が成り立っている。」、「規程の訂正時間に関する苦情処理会議が開催されたのは、松井さんの診断書都労委の成果である。」等、多くの意見が出されました。

総括答弁で渡辺書記長は、「働き方改革の弊害で、他企業では、お盆や正月休みで有休を消化させようとしている。東海労が闘っている一方的休日出勤反対の闘いや年休裁判の闘い、年休権の闘いは、労働組合の必要性・重要性、東海労の運動の正しさが再認識できる。」、「我々はこの間、葛西労政と闘ってきている。それを将来 3 M だけにやらせるわけにはいかない。職場からの闘いと情宣活動を強化し組織拡大を実現していく。」と述べられ、団結するとともに組合員一人ひとりが闘いを推し進めていくことを確認しました。